

オンライン支援のためのオンラインボランティア養成講座 受講後アンケート集計結果（回答 11 件）

【質問 1】 この養成講座の開催をどのような経緯で知りましたか。

- ・所属の日本語教室（3 件） ・ KIC の HP や Facebook(3 件) ・ Facebook で偶然(1 件)
- ・近隣市町の国際交流協会（1 件） ・ ボランティアの仲間（3 件）

【質問 2】 この講座を受講した目的

- これから 日本語ボランティア活動をしてみたい
- 将来、オンラインで日本語のサポートボランティア活動が出来るようになるため
- 学習者の要望がある場合に備えて。
- オンライン講座というものを知ることです。
- 対面でレッスンができなくなり、オンラインで学習者とつながることを模索していたので良い機会だと思ったから。
- 対面式の日本語支援活動ができない時のため。
- 今後の日本語教室の活動に、使えるツールの選択肢を増やしておくこと、です。
- zoom のホストの方法や操作方法を知りたかった
- オンラインで日本語支援を行うための方法や事例の学習
- コロナのせいで日本語教室が休講となり、オンライン授業の必要性が出て来ました。選択肢の一つとして ZOOM を利用したいと思い、基礎から学びたいと思いました。
- ネットがあまりわからず初心者なので、受講しました。

【質問 3】 この講座は役に立ったか

回答 11 人

- 役に立った・・・10 人（90.9%）
- Zoom を使うための役にはたったが日本語支援には？・・・1 人（9.1%）
- 役に立たなかった・・・0%

【質問 4】 どんな点が役にたったか

- オンライン会議でのルールとマナーを教えて頂きオンラインでの体験が役立ちました。
- 先生からオンラインの現状や問題点を聞くことが出来、また Zoom 操作方法を知ることが出来た。ほかの受講生の方々の考えを聞くことが出来た。
- Zoom の知識がなかったが、ホストになり招待できるようになったことです。
- オンライン講座の難しさが分かったことです。これから日本語ボランティア教室を運営していく一つの方法として考えたいと思っていますが...

- ズームでできることを学べた。オンラインで気をつけること、表情、対応も知ることができた。
- Zoom のオンラインミーティングの参加方法とホストになることを学べたこと。
- 今の時点ですが、利点と限界(自分のスキル面を含めて)がある程度わかったことと、仲間内でできることから ZOOM で打ち合わせができるようになったこと、が役立った点です。
- 入室やチャットなど複数で行う方法が分かった
- 基本のキの字から教わり、実践もできたので大いに役に経ちました。
- 自分の気持ちが少し前向きになりました。

【質問5】 どんな点が役に立たなかったか

- なし

【質問6】 受講してよかった点

- 私には、何もわからず受けましたが、現在活動されている方々の生の意見が聞けてた事です。
- 先生が何度もメールで資料を提供してくださったこと。オンライン講座は初めての経験で最初緊張しましたが、先生のおかげでリラックスして楽しく受けることが出来ました。
- 皆さんが初めてのことで、積極的に挑戦していく姿が刺激になりました。
- オンラインで授業を受けることの楽しさ、便利さを知りました。
- 受身でなく、考えて発言する機会があったこと。
- 講師の先生の大学でのオンライン授業の経験談を聞いた。
- オンラインでの日本語支援の可能性を知ることができた。
- いろんな地域の受講者の方々の話を聞いた。
- 離れた所にいらっしゃる先生の講義を聞き、また神戸の方を中心に、実際にはなかなかお会いできない方と知り合って一緒に頑張れたこと。
- 他の方と交流ができたし、他のアプリを同時に使えるのはビックリでした。食後の2時間は少々長かったけど楽しかったです。
- Zoom の使い方が理解できた。
- 操作方法が具体的に学べたこと。ホストになるのはハードルが高いように思いましたが、宿題を出していただいたので傍観者でいられずなんとかやったこと、やれたことがよかったです。
- いろいろな環境の人の意見などが聞いた。

【質問7】 講座の改善点

- 特にありませんが、敢えて言うならば3回では少ないような気がしました。5回ぐらいあれば良かったのではないかと思います。
- オンライン講座をオンラインではなく、実際の授業としてしていただいた方が、PC音痴の者にはよく分かったのではないかと思います。
- 日本語の指導を、実際どうするか知りたかった。指導内容、時間の使い方など。
- この講座受講前に一度でも ZOOM を(ゲストとしてでも)使った人は、うまく言えないのですが、URL をクリックするだけで、講座に参加するところまで入れたり、ホストになる練習の時も、先生が送って下さったやり方の画面となんとか違う画面が出てたりしました。不慣れな人は、それだけでとても不安になるので、「画面の配置などは違う場合もあるけど、キーワードが同じなら大丈夫」のような案内を入れておいてくださると、安心して先に進めるかな、と思いました。
- 途中で固まったりした場合は、一度退室して入り直してみてください、ということも、予めはじめの招待メールに入れておいていただくと安心かな、と思いました。(そんなこともあり得ます、という感じで...)
- 1回2時間計3回の講座の目標や内容が事前にもう少し詳しくわかるとよい。
- PC に対しての知識、経験値が様々だったように思いました。事前にどの程度できるのかを聞き取った上で、始められたほうがよかったのでは？と感じました。
- まだわからないところがわからない状態です。

【質問8】 今後、希望する講座の内容

- 初めての日本語ボランティア活動講座を希望します。
- 日本語サポートボランティア・スキルアップ講座があれば良いと思います。実際にボランティアを始めてみると疑問・問題点などが出てきます。色々教えて頂ければありがたいです。
- オンライン PC 講座です。
- 日本語ボランティアのための、学習者の日本語理解のレベルに応じた支援法
- オンラインで実際に日本語指導をやっている方の体験談
- 感染予防対策をしながら対面で日本語指導をやっている方の体験談 など
- 単数でも複数でもオンラインレッスン時に他のアプリを同時に使う方法、PowerPoint や PDF などについても知りたいです。
- やさしい日本語を地域で生活する外国人との共通言語として普及させる講座
- オンライン授業の進め方。ノウハウ。ただしボランティア教師を対象として。(日本語学校での一斉授業ではなく)

【質問9】 その他

- 今後は、出来るだけ色々な情報収集して 目的に繋がるように前進したいと思いま

すので 何かありましたら 宜しくお願い致します。

- コロナ感染で先が見えない状態ですが、今出来ることがあると思います。この講座もそうですし、スキルアップのためにも講座の開催を楽しみにしています。
- 内容を理解するのに手間取り、多少悩みもし、何か、夏休みがなかったような気がしていますが、楽しかったです。
- ありがとうございます🎵
- 市外から参加を受け入れて頂き、どうもありがとうございました。 次回の続編も楽しみにしています。予定が合えば、ぜひぜひ参加したいと思います。よろしくお願いします。
- 今回は、同じ団体の代表として3人で参加しました。今日は3人が互いにホストになって、会議を行いました。資料の共有など実際に試してもみました。教えていただいたことがスムーズに実践できるよう、何回か練習するつもりです。そして、他のメンバーにも広めたいと思っています。ありがとうございました。

【質問 10】 あなたの年代は？

回答 11 人

- 40代・・・1人 (9.1%) 「
- 50代・・・2人 (18.2%)
- 60代・・・5人 (45.5%)
- 70代・・・3人 (27.3%)

オンライン支援のためのオンラインボランティア養成講座 受講後の受講者からの「振り返りシート」と講師からのコメント

方法：グーグルフォームを活用

回収数：7 件

1. この講座を受講したことによる収穫を書きましょう。どんなことでもいいので、自由に書いてください。

受講者 A：ホストになる方法がよくわかりました

講師：1 度しただけでは、すぐに忘れてしまうので、ちょくちょく使って忘れないようにしましょう～

受講者 B：ZOOM の基本が学べたこと。少なくとも参加ができる自信がついたことが収穫です。最近外部の研修会も zoom 講座が主流となっています。これからは参加できます！！

講師：ハードルを下げるのも上げるのも自分しだいですね。今後は、どのような Zoom ミーティングへも参加できますよね。B さんの世界が広がりますね！

受講者 C：この講座を受講したことによって、Zoom の使い方を知ることが出来、良かったです。先生からはオンライン授業の現状や問題点を教えて頂き、また他の受講生の方々からは受講に対する思い考えを聞くことが出来、とても参考になりました。年を重ねると新しい事に挑戦する時（特にニューテクノロジーに関して）とても不安に思い、勇気が必要ですが、今回、思い切って参加して何事も挑戦することが大切なんだと改めて思いました。有難うございました。

講師：Zoom の初歩しかお教えできなくて申し訳ありませんでした。これを機会に、どんどん使っていただければ、スキルアップできると思います。何かを始めるとき、一歩足を踏み出すより先に、不安に思ったり効果の低さを算用し、なかなか始められませんよね。それは、年齢に関係ありません。「自分にはハードルが高い」とか、「こんなことをして人はどう見るだろう」とか、「途中で嫌になったらどうしよう」とか、いろいろ考えますよね。でも、それは、しない理由を自分で作って、新しいことに挑戦する機会を自ら遠ざけているということです。「歳だから・・・」というのも同じこと。これからも、どんどん新しいことに挑戦して、苦手感情を少なくしていきましょう！（これは、自分自身に言い聞かせてるんですけどね(笑)）

受講者 D：ZOOM に「入門」できました、と思います。

講師：オンラインで講座をしたことにより、私も思ってもいなかった遠方の方々とお知り合いになれました。予想外の展開を嬉しく思っています。

受講者 E：色々な人と出会えたような気分になりました。日本語教師同士で、日ごろ考え

ていることなど、オンラインでもっと話し合えると楽しいだろうなと思いました。

講師：オンラインでも、みなさんの顔がすぐそこに見えて、声も十分に聞こえるので、まるで近くで話をしているようでしたね。インターネットは、文明の利器ですよ。もしインターネットがなかったら、今回のような感染症が広まれば本当に社会全体がストップしてしまいますものね。インターネットのおかげで、業務を即座に在宅勤務に切り替えることができたんですよ。そして、出社しなくても遠隔で業務ができるんだと気づいた企業も多いそうですね。たくさんの引き出しを持っていれば、突然の事態にも対応できるということですね。私たちも、日本語支援をしていく際、多くを学び、引き出しを増やしていきたいですね。

受講者 F：オンライン講座の参加は初めてで、音声やビデオの使い方などいろいろと勉強になりました。Zoom のホストの体験は収穫がありました。

講師：私も Zoom ミーティングを使うための講座は初めてでしたので、受講者のみなさんにとって、十分に有益なものではなかったと反省することしきりです。もう少しゆっくりと時間をかけて、ホストになり、画面共有などもしてもら必要があったと思っています。これをきっかけに、今後はさらに充実した講座をしようと考えていますので、ぜひご参加ください。

受講者 G：zoom 会議に参加して出来る事とホストになる事を学べたのが良かったです。また、他の受講者の方々とグループになった時に、その方々の所属する日本語教室の話を聞いたのも楽しかったです。

講師：Zoom ミーティングに関しては、もっと時間を取ってゆっくり進めていけばよかったと後悔しています。Gさんは理解が早く、何事もサクサクと進められていたので助かりました。グループワークに時間を取って、Gさんのようにすぐにできるようになった方が、出来ない人に教える方法もありますよね。学びは、受講者間でも発生しますからね。また、他の日本語教室の情報を得るための時間も、もっとゆっくり取ればよかったと反省しきり……。ブラッシュアップ講座をする際には、そこらへんをじっくり考えて企画したいと思っています。

2. この講座を受講する前と後で、どんな変化がありましたか。気持ち、行動、スキルなど、具体的に書きましょう。

受講者 A：今後どれだけ役に立つかは分からないけど、やってみようと思うことが大切

講師：そうですね。よく「ハードルが高くて～～」と言いますが、あれは自分がそう感じているだけなので、実は最初の一步を踏み出さない理由を自分で作っているということなんですよ。 「ハードルが高くて～～」は禁句！

受講者 B：何事も挑戦あるのみ。PC は好きではなくて、仕方なく必要に迫られてやって来ましたが、知らないことがたくさんあります。できないことはできる人にや

ってもらっていました。zoom もハードルが高いように感じていましたが、なんとかできそうです。今日は、3人で練習しました。ギフトで時間制限がなかったので中身のある会議、打ち合わせができました。共有画面を使って写真や文書が共有できたときは、お互いに拍手し合いました。ZOOM の利用に反対する人もいて、会全体の活動に広げられるかどうかわかりませんが、少人数から始めていきたいと思います。コロナのせいで、毎年秋から3ヶ月間開催していた養成講座を中止にしました。年2回開催していた日本語教育研修会も行いません。それらにかわるものとしてオンライン講座ができるといいのですが、準備不足です。最大の問題は、関わる人の高齢化が進んでいるので、ITになじまないということです。学習者もオンライン環境が整っているとは言えません。今は、ラインを主に利用しています。zoom の利点を生かして講座や会議ができるようになればいいと目論んでいます。27年間継続している活動の灯を消さないためにも、なんとか乗り切っていこうと知恵を絞っています。これをご縁にご指導をお願いいたします。*H 教室 blog がありますので、お時間のある時にご覧になってください。

講師：H 教室さんのブログを拝見しました！まず目に入ったのが、9月～11月の教室休館のお知らせでした。胸が痛みます。神戸の教室もコロナ対策に疲弊しています。H 教室さんは、とても活発に活動していらっしゃるんですね。学習者数もボランティア数も多いですね。場所も安定しているようですし、恵まれた団体ですね。27年の歴史も感じ取れます。在籍が長いボランティアさんも多いんでしょうね。長年ボランティアを続けている人が多い場合、新しいことを取り入れたり、変更したりすることがスムーズに進まないことが多々あります。過去にとらわれていては複雑な社会に対応できないんですが、変えるのが嫌な人にとっては、過去が大切なんですよ。丁寧に合意形成していくことが肝心です。とても難しいことですが・・・。「変わらない」ということに関して、ブログを拝見していて気になったのですが、『M 教科書』を使っているんですね。20年ほど前になるでしょうか、日本中の日本語教室のボランティアから、『M 教科書』を使うことにより発生する課題が出始めて、日本語教育の専門家たちが、『M 教科書』からの脱却を促すために全国行脚したそうです。しかし、多くの教室が『M 教科書』からは簡単に離れられず、現在でも『M 教科書』を使いながら、「どうすればうまく教えられるのか」とか「学習者の質問にうまく答えられない」などの悩みを抱えているようです。私も、『M 教科書』の脱却を促すべく、15年ほど前から日本語教室の養成講座の講師をしているのですが、兵庫県の日本語教室は少しずつですが、変化しています。B さんの教室には、もしかしたら日本語教育の専門的知識があるボランティアさんが多いのかもしれないですね。そうでなければ、問題は発生していないかも・・・。

受講者 C：受講する前と後ですか？そうですね。先生や受講生の方々と出会えたことや、出来なかったことが自分で出来た事などが、とても新鮮で充実した時間でした。受講する前は将来オンライン日本語サポートに生かせればと思っていましたが、先の事はどうなるかわかりません。ですが今現在一つ一つ何か新しい事を学ぶこと、それがとても大切なことなんだと気付きました。ホストになる時の操作方法も途中から教わっていない画面に進んでいきドキドキでしたが何とかできました。パソコン操作はすぐに不安になり東京に住んでいる娘に頼るというパターンでしたが、今回受講して、これからはなるべく頼らずにしたいと思うようになりました。

講師：何事も、最初は周りの手を借りて、その後、じょじょに一人でできるようになれば、それで問題ありません。娘さんにも、しっかりサポートしてもらいましょうね(笑)。自分がまだまだ未熟な時に、誰かの手を借りた記憶があれば、未熟な人をサポートする際に優しく対応できますよね～～

受講者 D：(失礼な言い方かもしれませんが) 年配の方々も積極的に ZOOM にも日本語教育にも取り組んでらして、それがとても素敵で、私もそんな風に歳を重ねていくぞ！と改めて思いました。素敵な先輩と知り合えるということは、とても幸せなことです。・私も一度パソコンが受講中に完全に固まりました。「げっ」と思いましたが、スマホに慌てて ZOOM をインストールし、なんとか参加し直すことができました。スキルというほどではないですが、「そんなこともある。ではどうしよう？今できることは？」と考えられるようになりました。但し、その後の苦境脱出可能性案を、いくつか持っておかなくちゃいけないなあとも思いました。・行動面では…。同じ団体から参加していた、J さん・B さんと、ZOOM で打ち合わせをしてみました。次は、40 分で一度終わらせて、また参加する、を試そうと話しています。

講師：ロールモデルがいれば、自分が今いる時点から先に進むときの不安が軽減されますよね。そういう意味でも、活躍している先輩に巡り合うことが大切ですよね。とっさの判断で、スマホに切り替えて再入室できるなんて、D さん、すごい！その時は、「非常事態！」と思って慌てふためいても、それを乗り切ったあとには、倍返しでスキルが身につきますよね。今後も、どんどん新しいことに挑戦して、人間の幅を広げていきたいものですよ。お互い頑張りましょうね。H 教室の 3 人で受講したので、その後の実践に即座に結び付いたんですね。すぐに活かしてくださって嬉しい限りです。Zoom の使い方などを忘れないように、3 人で頻繁に Zoom を活用してくださいね。

受講者 E：オンラインでいろいろ教えていただくかと思って受講したのですが、甘かったです。パソコンが自由に使えることが前提でした。でも、どうにか ZOOM

開設(?)までできて、自分からの発信は失敗に終わりましたが、第4グループの優しい仲間に使っていただき、楽しく会談することができ、幸せでした。今まで面識のなかった方々と話せて、世界が広がったような気がしました。PCを使うのはホントに苦手ですが、楽しかったです。ありがとうございました。

講師：苦手なことも、今回のように受講者同士で助け合えば克服できますね。助けた人も、助けたことによって、さらにスキルアップするので、双方にとってよい機会になったと思います。今回、Eさんが「楽しかった」と思った感覚を忘れないでほしいと思います。その感覚を忘れなければ、学習者が楽しいと感じながら学習するにはどうすればいいかがわかりますよね。

受講者 F：遠距離では複数人の対面会話の実現は難しいがオンラインでは簡単に実現できる。ニューノーマルではこれが普通になるのかもしれませんが。

講師：そうですね、我々中高年も、これまでの常識を一掃してFさんが言われるように、ニューノーマルについていけないといけませんよね。我々インターネットのノンネイティブ世代としては、ハードルを高く感じる場面に多々遭遇すると思いますが、若者に負けてられません！どんどん新しいことに挑戦しましょうね！何事も、エイやっ！と思って挑戦すれば、意外となんとかなるもんですよね。

受講者 G：いざという時に、日本語ボランティアをオンラインでする場合に対応できるように、パワーポイントでの資料作りも必要だと思いました。でも、それ以前に日本語の教え方・文法知識が未熟なので、日本語教室で参考になりそうな本を借りて読んでいます。

講師：結局、自分で学ぶしかないんですよ。担当する学習者の希望をもとに日本語支援をしようと考え、さまざまな知識やスキルが必要だということに気づきます。日本語学校ではない地域日本語教室は学習者に何を提供するのかを、教室に関わる人たちで話し合う必要があると思います。

3. 自由記述欄（つぶやき、講師への質問などご自由にお書きください。）

受講者 A：支援者さまざま、語学学習は教師目線であってはならない。学習者の立場を尊重することが大切なのを再認識しました。

講師：「再認識した」ということは、記憶に残っていたということですね！よかった！「学習者の役に立ちたい！」という熱い思いでボランティアをする人が多いんですが熱い思いを学習者に押し付けてはいけませんよね。「あの人、熱いボランティアだよね！」と言われるうちは、まだまだ役に立っていないのかも。静かで優しいまなざしで学習者を見られるようになったとき、本当に役に立つボランティアになるのかも。（あっ、このことば、我ながら

あっぱれ！次回のメルマガに使おう！忘れないうちに、メモしなきゃ！)

受講者 B：将来的に zoom で研修会を行うとしたら、講師をお願いできるでしょうか？
ボランティア教師のための勉強会です。毎回30名程度が参加の会です。前述したように準備が整っていないのでいつ開催できるかわかりませんが、その節はよろしくお願いいたします。

講師：はい、Zoom でも養成講座をお受けしますよ～～。いつでも、お声かけください。こちらでも、今後もオンラインでいろいろな養成講座や研修会などを開催すると思いますので、また、ご案内させていただきますね。コロナのおかげ(?)で、東京のBさんとDさんとJさんとお知り合いになりました。
どんなことでも、メリットがあるものですね(#^.^#)

受講者 C：第2回 オンラインボランティア養成講座も是非参加したいと思います。パワーポイントの使い方も楽しみにしています。よろしくお願いします。

講師：まだまだ予定を立てていないのですが、次回もご案内しますので、ぜひ、ご参加くださいね。

受講者 D：市外からの参加者も受け入れて下さって、ありがとうございます。改めて、「自分と未来は変えられる」とおもいました。が、反面、「他者と過去は変えられない」も痛感しています。やはり、ZOOM などには抵抗のあるメンバーも団体内にはおられますし…。ボランティアなので、なんにしても無理強いはできないです。オンラインも取り組める人から取り組んでいけば(なるべく楽し気に)、「まだやりたくないわ」と言っている方も「やってみようかしら」という気持ちになるかもしれないと思っています。なので、自分が苦しくない程度に、楽しく頑張ろうと思っています。パソコンが家族共用だったり、在宅で仕事や勉強をしている家族が不定期的にいと、やはりちょっと気になったり、といった、微々たる困難はありますが、できるときにできるだけやっていきます。応用編(?)も、時間が合えば、ぜひ参加したいと思っています。そのときはどうぞよろしくお願いいたします。オンラインで日本語指導なさっている方の様子を見学したり体験談がきけたりしたら、それもありがたいです。団体の会議をオンラインで試した方々の、良かった点や課題なども、勉強できるとそれもありたいです。先生もお忙しいことと思いますが、どうぞ、健康第一でご活躍ください！
本当にどうもありがとうございました。

講師：ありがとうございます。お互い、まずは健康に気をつけて過ごしましょうね。
Dさんの「自分と未来は変えられる」が、「他者と過去は変えられない」は、名言ですね！これを忘れずに日本語教室に関わっていれば、ボランティア同士のいざこざは発生しませんね。そして、学習者に対しても同様ですよ。学習者の学習がうまく進まないときには、自分の方法を疑ってみることから始めないと、問題は解決しません。そのことを忘れがちなんですよ～我々は。今後の講座

も、オンラインのものは、すべてご案内させていただきます。再会できる日を楽しみにしています。

受講者 E：ご提示いただくメールはできれば、完全なものにして送っていただきたく、後追いで送られてくると、ええ？という気分になります。提出の期限は厳守するようにしていただきたいと思います。実は ZOOM に入るのに苦労しました。提出期限の 17 日の 5 時までに一応中途半端なものをお送りしました。そのご、何度もやり直して、やっと、URL も分かったのですが、それはミーティング ID もパスワードも違ったもので、それにたどり着いたのが、19 日の夜中 24：00 でした。今から送っても迷惑だし、不格好な ZOOM 登録のままで 20 日の当日を迎えました。と、なんと 12 時前になって ZOOM 登録をしてきた人がいるじゃないですか、話が違うと悔しい思いをしました。スケジュールを維持していただきたいと存じます。今回、講座募集の際、何の条件もございませんでしたが、PC を充分使えることを 入れていただいた方が、受講者は戸惑わなくていいんじゃないかと思われま。因みに、日本語をボランティアでも教えようという人は 60 代後半から 70 代にかけての方ではないかと思えます。個人のことを申し上げて、僭越でございしますが、80 年初頭に子育てで一応終わった頃、YWCA 日本語教師養成講座を受けました。80~90 初めまではワープロの世界でして、ワープロで問題も作っておりました。90 年半ばに PC が使われるようになりましたが、日本語学校で、日本語を教えるだけの非常勤講師では PC は必要ではありませんでした。今回の講座も、私たちのグループのトップはオンラインは組織の枠で作られたものに則って教えることはあっても、自分から発することはないだろうからと、受講しませんでした。

先生、以上が、理数系か、PC 教育で育っている人は別として、一般の我々世代の人間の正直な思いです。できれば、場面表示だけでなく、先生の PC を使って目の前で ZOOM への展開をお教えいただきたかったと思っております。先生はご自分のレベルで受講生をご覧になり過ぎではないでしょうか。勿論、PC に関してのベテランもいらっしゃいましたし、単なる年寄りの愚痴とお流しいただければ幸いです。勝手なことばかり、くだくだと述べましてどうかお許しくださいます。秋の講座までには、私自身の PC 対策を立てなければと考えております。

講師：さまざまなお意見、ありがとうございました。私も Zoom ミーティングを操るための養成講座は初めての試みでしたので、当初想像していたことと現実とは違うことを実感しました。E さんが書かれているとおり、我々中高年世代は、インターネットのネイティブではありません。20 代より下の世代は、インターネットのネイティブ世代ですので、細かい指示がなくても直感で操作したり、前に進むことができます。しかし、我々ノンネイティブ世代は直感が

働かないので、1つ1つ頭で考えながら進むしかありませんよね。その点を、私は見落としていました。Eさんが感じたことを、私も感じながら講座を進めていました。今回の講座は、そういう意味では実験的であったと思います。今回、このような講座をし、みなさんからご意見をいただいたことで、次回、このような講座を実施する際に注意を払わないといけない点が見えてきましたので、講座も少しずつ改善していくと思っていただければ嬉しいです。また、受講者に関するご指摘もいただきましたが、これにつきましても、上述の内容と関係するところがあり、PCに慣れていないがために、べ切を過ぎてしまうということもあったようです。講座が3日しかなかったこともあり、受講者のみなさんが十分に慣れるのを待たずに、次々とタスクを与えてしまったので、アップアップされていた方もいらっしゃいました。これも、私の判断ミスです。Eさんには、十分な講座ではなかったようですが、今後、改善をし今回以上の講座を実施いたしましたので、その節は、ぜひご参加くださいね。いろいろなご意見をくださり、心より感謝しております。今後ともよろしくお願いいたします。

受講者 F：日本語支援は女性と高齢者がメジャーなようなので、活動できる分野がどんどん増えるとよいと思います。

講師：地域型は、1990年代から盛んになったのですが、その頃のボランティアは、専業主婦とか有閑マダムと言われていた人々が主流でした。でも、その後、経済の低迷が続くことにより、有閑マダムや専業主婦が少なくなり、新規のボランティアが減少した時期がありました。そして、最近では、定年を迎えた男性がこの世界に集まるようになりました。最近、少しずつ、60代の男性が増えてきています。どのような世界も、バランスが肝心ですので、男性が活躍してくださるのは大歓迎です。今後ともよろしくお願いいたします。